



杉退教・さくら会 たより

杉並区退職教職員連絡協議会（さくら会）

ホームページ「都教組杉並支部」で検索

〒167-0031 杉並区本天沼 1-2-19 都教組杉並支部内 Tel 3399-8719 Fax 3399-3855

9条変えるな！安倍政権は退場せよ！



「メーデー」と
「5・3憲法集会」



今年の第89回メーデーは、文字通りの五月晴れ、新緑が目鮮やかな代々木公園で開かれました。気温もグングン上昇、夏日！となりましたが、今年の都教組杉並支部の参加記念品は素敵色柄のタオルだったので、早速日よけに使わせてもらいました。杉並の年金者組合の皆さんにもシートに座っていただいたので、終了後の記念写真にも入っていただきました。右の写真は、6万人が参加した「5・3憲法集会」です。（前）

今年のメーデースローガンから抜粋

安倍9条改憲反対 戦争法廃止！ 市民と野党の共闘で安倍政権退陣を
過労死合法化、雇用破壊の安倍「働き方改革」反対 8時間働いて普通に暮らせる賃金・働くルールの確立
年金・医療・介護など社会保障制度の拡充 消費税10%増税の中止
安倍「教育再生」反対 STOP！戦争する国づくり 辺野古の新基地建設反対
オスプレイの全国配備・訓練反対 核兵器禁止条約の批准を

女の平和 主催

「平和のための自衛隊朝霞駐屯地見学」

に参加して

女の平和 では、国会周辺の活動に並行して、首都圏にある基地の改変についての学習会や見学を続けています。1回目は埼玉県入間基地について学び、2回目は港区にある麻布米軍基地を見学し、安民法制化前後から戦争ができる国として大きく改変されてきた自衛隊や米軍基地の実態を見てきました。



人間基地

第3回は、4月18日、自衛隊朝霞駐屯地の見学を実施しました。講師を含め23名の参加でした。集合地で元阿佐ヶ谷中のYさんに会い、旧交を温めるというハブニングもありました。

初めに、練馬区平和委員会の坂本茂さんから、東京から埼玉県に至る広大な敷地を持つ陸軍予科士官学校・訓練施設として誕生以来の歴史について説明がありました。

戦後はキャンプドレイクとなり、1950年の朝鮮戦争勃発から米軍補給基地となったこと、1953年には極東軍総司令部が置かれてリトルペンタゴンとして、ベトナム戦争終結まで司令塔として利用されたそうです。基地の死体置き場のすぐ近くにある中学校はほかの土地に移されましたが、1965年には、マラリア患者を収容するために2000ベッドの野戦病院が設置されました。1975年、ベトナム戦争が終結し、1986年に返還されましたが、現在でも和光市には、ベトナム戦争時に謀略放送を行っていたAFN送信用アンテナが現存しています。米軍基地返還という、すぐにでもいる

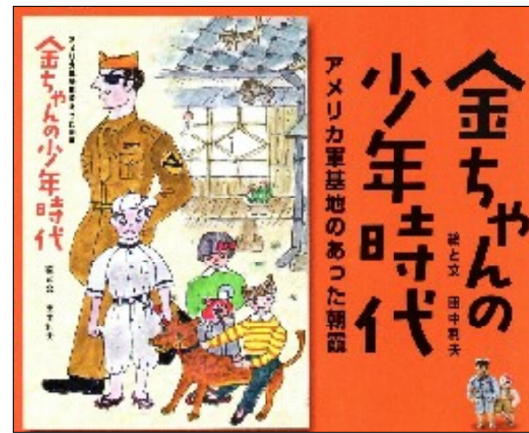


自衛隊練馬駐屯地

いろいろな利用ができると思いがちですが、土壌には鉛・化学物質など深刻な汚染があるのだそうです。

1960年から自衛隊基地として使用されてきましたが、2001年頃から自衛隊研究本部が設置され、イラク特措法以来活発な動きがみられるようになったとして、その様子が説明されました。今年3月朝霞駐屯地内に地下21メートルの地下壕付き「陸上総隊司令部（隊員500名を超える）」が新設されたということです。坂本さんは監視活動をずっと続けていて、自衛隊員とも顔見知りでした。

最後に坂本さんは「（自衛隊を）憲法に書き込むことについて、隊員の方々が深刻に悩んでいるということを知ってほしい。悩める自衛官に寄り添っていききたい。我々が何をしたらいいのか、と一緒に考えましょう。」と結びました。



次は、1938年生まれで朝霞で育った田中利夫さんが演じる「金ちゃんの紙芝居」でした。基地の町、朝霞の様子が目に見えるようでした。

昼食後、広大な朝霞の森（元米軍基地で公園になっている）を通過して、自衛隊朝霞駐屯地に向かいました。途中美しい若葉におおわれた緑の森を見ながら柵の中に入れない理由を聞くと、土壌汚染が明らかになっていないので入れないとのことでした。

陸上自衛隊広報センターには、イラクで活躍したという戦車（アラビア語で標識が書かれている）が、何台か展示されていました。広報センターには3Dで訓練を体験できる設備もありました。外に出ると柵の向こうで隊員が訓練をしているところも見えました。あちこちまわって2時間ほどいましたが、帰りがけに見るとはじめと同じ「気を付け」の姿勢と号令が聞こえていました。隊員の案内で施設を見するというイベントもありましたが、参加せずに帰りました。



陸上自衛隊練馬駐屯地広報センターと川越街道

（元大宮小）

小林 久枝

セッション杉並 超満員 前川喜平さん 講演会



（前・文部科学省事務次官）
前川喜平さん講演会

4/17 火
19:00 開場 18:30
セッション杉並
ホール
地下鉄丸の内線「東大塚駅」から徒歩5分
定員578名（先着順）
資料代700円

憲法とわたし
前川喜平さん、杉並で憲法を語る

会場に入れず、帰宅された方も多数いらっしゃいました。

安倍内閣は今や政権担当の能力もなければ資格もありません。次から次へとあきれほどの文書隠ぺい、改ざん。ウソ、ごまかしの国会答弁。セクハラにはしらをきり続け、国民に嘘をつき、国民の声を聞かないアベ政治。事は全て、憲法を守ろうとしないアベ首相の政治姿勢に原因があるのではないのでしょうか。こうした情勢の中で開かれた前川さん（前文部科学省事務次官）の講演会は、まさにタイムリーでした。当日の会場は超満員で、入場をお断りした方がたくさんおられたということです。

じめに、どうして文部省に入ったかを語られました。やはり憲法なので。学生の時に憲法だけは学ぶに値すると考え進路を定めたと。入省の時は憲法を守ることを宣誓。「安保法制」の時、雨の国会前集會に1回だけ行ったことがあるというエピソードにはビックリしましたが、官僚になっても前川さんの憲法に対する姿勢には一貫したものがあるのだと感心し、同時にやっぱりすごい人だなと思いを新たにしました。

続いて、憲法は日本だけのものではなく、人類が勝ち取ったものが引き継がれていること（97条・前文）、とりわけ教育行政の基となっている26条について縦横に語りました。

前川さんはこの条文はどういう意味なのかを詳しく説明するとともに、

それに沿ったご自分の教育行政の努力に触れ、義務教育の「義務」とは前憲法の三大義務とは違うこと。国民が主権者だから、政府にこそ義務があるということを強調しました。「すべて国民は」「人は」あるいは「何人も」。「能力に応じて」「個性に応じて」。「国は全ての人々に～」と言い換えればこの条文はよくわかる・・・には納得しました。

話の後半は、まず自民党の改正案について。26条に「無償」を付け加える必要はないこと、「国の未来を切り開くために」などという書き込みは、戦前のような選別する教育につながり、教育という人権の項にはふさわしくないと見解を述べました。そして、お話は憲法13条「個人の尊厳」という憲法の中核のお話に入っていました。

前の天皇を中心とした国家観とそれに基づいた教育勅語とはどういうものが詳しく説明をされ、それが今に続いていることを指摘しました。そのお話で、教育勅語と憲法制定の時につくられた教育基本法の前文を、立て板に水のようにすらすらと唱え、字句の解説もされたのですが、これには感心するばかり。お陰で内容もよく分かりました。

最後に、憲法の3原則とともに挙げたのが「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と始まるユネスコ憲章の前文でした。そして、当時世界で最も民主的な憲法をもっていたドイツの歴史を学ぶことが大切だと述べられました。人類の経験として、民主主義が独裁を生んだということ。フランスも同様に、と。

お話は1時間35分も。参加者一同感銘の大きな拍手を送りました。(前山)

杉並ぞうれっしゃ合唱団

2018 ファミリーコンサート

7月 日(日)午後2時開演 セシオン杉並 ホール

入場券：大人1000円(当日100円増)

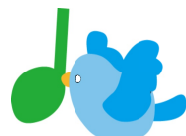
オープニング：合唱と被爆のお話

第1部 池山 由香さん アルパ演奏と歌

第2部 杉並ぞうれっしゃ合唱団の合唱構成発表

主催：同合唱団 共催：杉並区教育委員会

入場券の申し込み：都教組杉並支部まで



杉並支部・杉並ピースフォーラムのDVD・BDに記録されている。ドラマ・アニメ・戦争と平和関係・原発に関する記録などのライブラリー一覧を紹介しました。

このページには記載を省略します。

